

猿島野の大地を考える会便り

猿島野の大地を考える会
事務局 世話人代表
小野 賢二

猿島野の大地

小野 賢二

会員の皆さん、いつも会に温かいご支援を頂戴して心から感謝を申し上げます。さて会も三十数年の歳月を重ねて参りました。その間には皆さんと共に色々な意味で新しい発見や貴重な経験が出来ましたことは本当に有り難く思っています。また昨年の当初から新型コロナの感染が拡大して年二回の交流行事も開催が出来ずに終わりました。残念至極であります。

考えてみれば一昨年前に NPO 法人の解散が無事に終える事が出来て本当に良かったと思います。これも皆さんのご協力により達成し適切な結論であったと思います。さてここで皆さんにもう一つお伝えしなければならなくなりました。それは団体組織としての『猿島野の大地を考える会』を閉じる事にさせて頂くことになりました。それは前にも書きましたがコロナの拡大により活動が停止した事と、歳を重ねて体力的な不安や智力、気力が低下して来て皆さんに御迷惑をお掛けするのでここが潮時かと思いました。毎月の定例会も開催出来ず休みがちでしたが臨時に開催して協議の結果皆さんの総意で決する事ができました。休む事なく大地を見つめて三十五年の長期間でしたが皆さんの温かいご支援があったから成し得られたものと深く感謝する次第です。

ユニセフ、ペシャワール会、そして自然災害地で困難を極めておられる方々への支援も出来、幾らかでもお役に立てる事ができました事をご報告しておきます。

また今までの会員制をなくして何の決め事も無い自由な会に致します。

とは言いましても全ての事業活動をやめるわけではなく、会の大黒柱である「もったいない ピース エコ ショップ」などはこれからも必要に応じて皆さんに伝えて行ければと思っています。もちろん会の名称は残して活動内容を次世代に伝えることができればこの上ない喜びです。どうか皆様の御理解とご支援を頂きますよう心からお願い申し上げます。

新型コロナの終息後はどのような社会的変化が生まれてくるのか分かりませんが、我々が推進してきた環境汚染や二酸化炭素を削減する実践的な活動内容には変化はないと思われます。

地球温暖化による様々な影響が深まり生物の生存を脅かす事になってきて、このままでは地球の生物が大きな危機を迎えてしまいます。このところ国連で採択された

持続可能な開発目標は未来の形を実現するためのものです。

これを機に時間がかかろうとも何としても成し得なければなりません。私達の会で培った小さな一歩を踏み出す勇気と継続する力が大きな遺産ではないかと思っています。

私は四年間の東京生活から離れる時に古本の日焼けした宮澤賢治全集を知りあいであつた古本屋の店主から戴き大切に保存をしておりました。あるとき賢治の羅須地人協会時代の農民芸術概論要綱のなかで「新たな時代は世界が一の意識になり生物となる方向にある」という詩を見つけました。まさしくこれからの世界は賢治の哲学的な生き方に尽きると思います。食糧や人口問題を含めて課題は山積していますが居住地に適した歴史や文化を守り大地からの恵みの中で永劫回帰の暮らしを立てることではないでしょうか。

この考えに基づき仕事や活動に賢治から大きな力を得る事が出来ました。

そして会員の中から五年ほど前に若い子育て中のお母さんから農場での育児の会を希望されました。皆さんからの応援する声を受け『大地っ子』が誕生し次世代につながる活動ができればと思い続けております。そして皆さんと共に築いて来た会の基本的な理念を理解してくださり若いかたがたに引き継いでいただければ有り難いことだと願う次第です。感謝とお礼の言葉を言わなければならないことが山ほどありますがとても書ききれません。お察しいただきお許しください。

これからも何かお気付きの事がありましたら忌憚なくお話をいただき皆さんと共に一緒に歩んで行きたいものです。最後の頁に簡単な会の歩みを記しておきましたのでお読みくださりご理解を賜りたくお願いします。

長期間にわたりご協力とご支援くださった多くの皆さんに熱くお礼を申し上げますと共に皆様方のご健康を心からお祈りしております。本当に有難うございました。



感謝とお詫び

小野 羊子

この度、突然に会を閉じさせていただくというお知らせに、驚きと疑念を抱いた方も多いと思います。誠に申し訳ありませんでした。一昨年無事に皆様のお陰で、NPO法人を解散でき、これからも出来る限り会を存続するとお約束しましたのに、一昨年初頭から新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず活動が全て中止になってしまいました。それに加えて私は年齢を増すごとに体力、知力、気力の衰えを感じ、皆様にご迷惑をお掛けする心配があると思うようになってしまい、約三十年間続いた会を閉じる事になってしまい、私の不徳の致すところです。本当に長きにわたりご支援いただいた皆さんに心からお礼を申し上げますと共に深くお詫びさせていただきます。

人生の最初の転換点は、私が個人的に生きづまっていた時、宮澤賢治の詩の中に真に納得する人間定義を見つけ再生の機会を与えられました。それまで個人的領域でしか生きてこなかった自分を反省し、自分を社会化するため、自然と社会両方につながっている道路のゴミ拾いを始めました。ゴミを無心に拾っていると自分が透明に元気になり、全ての行動の指針につながっていきました。その後に私達の農場がゴルフ場建設計画の中に入り、私達は賢治の『正しく強く生きるとは銀河系を自らの中に意識してそれに應じて行くことである。』の言葉に背中を押されて立木トラスト運動を展開することになりました。これを機に多くの人から支援を受け、平成四年に「猿島野の大地を考える会」が誕生し今日まで継続する事が出来ました。

そして、ゴルフ場は出来てしまいましたがその反対運動の過程で対立ではなく対話を重視したお陰で、その後はよい共生関係が生まれゴルフ場の玄関先で「もったいない ピース エコ ショップ」をやる事を快諾して頂き有り難かったです。それがなんと十年以上も続ける事ができ、より多くの支援が出来ました。

会の三大事業の一つとして生まれた「もったいない ピース エコ ショップ 事業」も発端は、私の勿体無い精神と働く張り合いが欲しくて、子供の命が最優先と発想し「ユニセフ ショップ」として生まれました。途中から読書家の次女から、子供の命も含み世界平和を体現している中村哲医師を中心とするペシャワール会の存在を知り、支援の主軸を徐々に移し、事業名も多くの人に理解しやすい「もったいない ピース エコ ショップ」としました。しかし、平成六年に生まれたこのショップが、現在まで継続でき、多くの支援金を通して世界平和に関与できたのは、ひとえに会員みなさんの温かい気持ちが結集されたものと心から感謝を申し上げます。

二つ目の「もったいない ピース エコ ショップを各地に広げる事業」も折角私の夢に共鳴して頂けたのに、私の方から夢を遠のかせてしまい、これも私の不徳の致すところ、本当に申し訳ありませんでした。

三つ目の「微生物を活用した環境保全事業」も、地球温暖化や放射能減少に役立ち、大地に微生物をふやし、経費も少なくいい事づくめです。具体的には、EM 製品、EM 活性液、光合成細菌、EM 液体石鹼、竹酢液、竹炭などです。

この二酸化炭素を好む光合成細菌が、生ゴミと組み合わせると、すぐ土に埋められ簡便な自家処理ができる方法が見つかったのは、やはり平成六年に誕生したゴミ関心部会「四季の会」の皆さんのおかげでした。

そして、年二回の交流行事は沢山の人達が参加しておられました。自然や日本の文化を大事にしておられる知恵者の方、前日から準備にきてくださる人たち、記念写真を毎年とってくださる方、皆さんの自主的な参加で、いつも盛会で、有り難い事でした。もったいないピース エコショップも毎年ビワの木の下で出店させて頂き、去年は富津の幼馴染さん達が、毎年お店番をしてくれる方達と一緒に加わりぎやかに声を掛け合って沢山売って下さいました。その光景は、私の胸中にありがたく残っています。

まだまだ道なかばにして活動が出来なくなったことに対して深くお詫びを申し上げます。縮小しても続けられる範囲内で進めていけたらと願っています。これまで長きにわたって、全く未熟な私を導き、ここまでたどり着かせてくださった全ての方々に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

そして四年前に若い会員さんの提案で誕生した自然育児の会『大地っ子』には若いお母さんと子供達が参加して農場の自然の中で子育てをしています。これからの若い人達に猿島野の大地を考える会の理念を引き継いで頂ければ幸いです。

新型コロナの感染拡大の中での日々ですがどうか皆さん健康には御留意くださることを心から願いましてお礼に返させていただきます。

お問い合わせ先

猿島野の大地を考える会事務局

〒306-0505 茨城県坂東市菅谷 2218 自生農場内

Tel&Fax 0280-88-7670 E メール: onofarm42@gmail.com

ホームページ <http://www.peaceecoshop.com>

振込加入者名 猿島野の大地を考える会 郵便振込口座 00300-0-35167

猿島野の大地を考える会の歩み

- 1986 昭和 61年 自生農場の設立、循環型自然養鶏の取り組みにスタート
- 1990 平成 2年 猿島カントリークラブ建設計画で調査開始
- 1992 4年4月8日 猿島野の大地を考える会の発足。(会員 50名の出席)
猿島カントリークラブの計画中止を求める署名活動開始
茨城県知事、猿島町長に猿島カントリーの建設中止を求める
陳情書と署名を提出(署名者 3215名)
- 1992 4年6月立木トラスト運動開始。支援本数、1300本以上。
さきたまグリーン生協。我孫子生活センター。文教大学エコロジー。
東京農大奉仕会。地元地権者の皆さん。まだまだ個人的に沢山のご支
援を頂きました。本当に有り難うございました
全国からは700名以上の参加がありました。
- 1994 6年~17年 月一回全戸配布ボランティア広報紙「茶はなし」で
「四季の会」でゴミ拾いを呼びかける
- 1996 8年 オオタカ保護の会設立(35名の参加)
9年~17年 会提案EM生ゴミボカシの無料配布が猿島町で実施
- 1998 10年7月~9月 EMによる排水浄化実験で、浄化力を検証(毎週
3ヶ月間 連続する)
- 1998 10年11月 猿島カントリーの営業許可を茨城県知事が認可
ゴルフ場の開場
- 1998 10年 会による「猿島町まるごと博物館」完成
- 2000 12年9月 NPO法人の認証を受ける
坂東市後援によるフォーラム開催
- 2001 13年~30年 市、町との委託事業
「EM活性液による米のとぎ汁流さない運動」
「EM培養液による西仁連川の浄化活動」
- 2018 30年 NPO法人 解散
- 2019 会独自の「バイオマス活用推進計画」作成
- 2021 令和3年 『猿島野の大地を考える会』解散
会員制を廃止して名称は存続

定期的に活動してきた会の活動

毎月一回の定例会 第三木曜日夜 7 時 30 分 (通算 312 回)

毎月一回の水質検査 第三日曜日午前 10 時 町内 20 箇所 (通算 181 回)

毎月一回 町発行『茶はなし』広報紙の中に会の活動を掲載する。

全戸配布 (通算 140 回)

年二回の交流会 一月、五月、第三日曜日午前 10 時～午後 3 時 (通算 61 回)

年一回の会の便り発行 五月～六月 (通算 33 回)

年一回の逆井城址公園に於いて会の活動展示ブース (通算 12 回)

年一回の市民文化祭環境展に会の活動展示 (通算 20 回)

年一回の町まるごと博物館巡り (通算 15 回)

もったいない廃材を活用して創った建物

* 私の宮沢賢治かん (1996 年～1999 年に完成 南瓜の輸入梱包材)

* もったいないピース エコショップ (2001 年～2003 年に完成 元育雛舎の内部を建具の工場から出る半端材)

* 燻製舎 2015 年 (建材と煉瓦は全て廃物利用)

* 堆肥舎 2001 年 (土建業社、製材所の廃物利用)

30 数年を辿ってみましたが皆さんの温かい支援と力強い協力がなければ到底出来得なかった事を思い知りました。こころから有難うと申し上げます。
まだ施設などは十分活用出来ますのでお使い頂ければ有り難いです。

編集後記

猿島野の大地を考える会 33 号はこれが最終回になり万感胸に迫ります。

新型コロナの感染拡大のなか、たくさんの方々から原稿を寄せてくださり感謝に絶えません。厚く御礼申し上げます。

これからも近くに来られた時にはお立ち寄りください。

また発行が遅れてしまいました事を申し訳なくお詫びいたします。

皆々様のご健康とご活躍を心からお祈り致します。有難う御座いました。